

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム コスモス
(ユニット名)	コスモス 西
所在地 (県・市町村名)	群馬県太田市藤久良町68-5
記入者名 (管理者)	石田 正子
記入日	平成 19 年 6 月 5 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	地域の方々が、行事等関係なく、気軽にホームへ訪問していただける様、交流を今まで以上に深めていく。
2	<input type="checkbox"/> イ 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 〇家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 〇隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>推進会議等を活用し、地域のかたがたや、お年寄りの方、一人暮らしの高齢者に対して、どんな事ができるか話し合いながら取り組んでいる。回覧板による施設紹介と立ち寄りの呼びかけ...</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>地域に溶け込む施設を目指し、職員一眼になって努力しています。指摘を受けたことについては、常に話し合いをし改善している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のあり方について模索中です。具体的指導が無く、施設にお任せ状態です。</p>	○	<p>役所の担当部署と打ち合わせを行い、有効的な会議にしたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>必要に応じ、市役所担当課へ出向き意見交換やご指示をおねがいしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>当施設に、権利擁護の制度を利用していたお年寄りがいました。制度について理解しています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者を思いやり、虐待のない施設であり、良い職場だと考えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に説明を行い、理解を得ていると考えています。不安や疑問点については相談に応じる旨を伝えています。施設と利用者・家族との意思疎通が大事だと考えています。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が職員に気軽に意見・不満・苦情が言える関係づくり、健康管理に問題がない限り利用者の要望は聞き入れている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月お便りを発行し、その人の様子をお知らせする。面会の際にはその都度近況を報告しています。怪我や緊急時は、電話連絡をしております。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時やプラン説明時に要望を家族の方に聞き、対応しています。苦情相談窓口を設置し対応しています。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に勉強会を設け、意見交換しながら、職員の介護認識を統一すると共に、気づいたことや、疑問に思ったことは、常に話し合いができるようにしています。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族の希望にあわせた勤務割りを必要な時は行っている。勤務票を基本にするが、必要により時間外勤務、勤務変更を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員配置はできるだけ一定とし、各利用者の専属担当を決め、利用者さん、家族とのコミュニケーションを大事にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の計画票により、必要なコース・人員を把握し受講してもらい、職場において講習会を開き普及しています。</p>	<p>○</p> <p>6月に管理者研修を受講予定している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームとの交流実施(職員と利用者様)施設見学・コースなどの交流会実施。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室は別棟へ設置しており、休憩時間は業務から開放され、リラックスできる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>技術とケアの向上が生活の安定につながるよう、受験資格が取得できる方には、資格への道を勧めている。勉強会での知識向上も目指している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に、家族・御本人に見学していただき、当施設に対する希望することなどを良く聞き取る。納得できたときに利用していただく。管理者・計画作成者等責任のある人を同席する。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ケアマネ・家族の意見をよく聞きサービス可能かであるか検討し、意思の疎通を図る。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の希望を確認し対応している。ケアマネも含めて、入所決定前に十分検討する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学・体験利用等を行い、ご本人の意向を大事にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事手伝いを一緒に行いながら、職員の知らないことなど教えてもらっている。その人らしく得意な分野を伸ばしてもらおう。昔話や歌も職員に教えていただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院・外出時は、家族の可能な限り協力していただいています。行事お祭りなども家族と共に楽しみます。面会時には、近況状況を説明し、情報の共有化をできるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の生活情報を集めや、家族・ご本人との家族関係を理解し、入居後もよい関係が築いていけるよう支援していく。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望で、手紙を出すことや、近いところは出かけることも支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルが起きないように、テーブル席の工夫を行い、仲良くすごし、助け合いができる関係になるよう配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時折家族の方へ連絡を取り、困りごとには支援も考えている。一度退所し、入院加療終了後暫らく待機していただき、再利用している利用者もおられます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に本人の意向を聞き、記録しスタッフへ周知する。ご本人の意向が困難な場合は、家族の方より意向を聞き、本人本位に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントにより、生活歴や今までの生活の流れを把握している。	○	生活歴(幼少の頃から)の詳しい情報を家族に提供していただきながら、よいサービスへとつなげてゆきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者さん一人ひとりの現状を把握し、心身状態・有する能力の現状を把握し、職員全員が状況を提供し合い、その人に合った提供ができるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームでよりよい生活ができるように、ケアのあり方について、本人及び家族・職員と話し合い計画書を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直している。変化が生じた場合は、本人、家族、職員で話し合いを行い、新たな計画書を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が情報を共有し、変化など記録に残し、実践や計画書の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は行っていない。	○	将来的には小規模多機能的な施設サービスも検討したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	誕生会などへボランティアの方の協力を得、楽しいひと時を送っています。消防署の協力を得ながら、避難訓練の実施。利用者の機能・行動の可能性についても把握しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当施設での生活が適当でなくなった時は、ケアマネ・ドクターと家族と相談し最適なサービスが利用できるよう支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は行っていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族に納得が得られたかかりつけ医師に定期的に受診している。急変や緊急時はすぐ医師に連絡を取り、指示をいただける体制になっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	施設委託医師と相談し、受診が適当な人は神経内科・専門医院へ受診している。(家族の同意を得たうえで)必要に応じて家族同伴とする。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	現在行っていない。	○ 委託医師が休日返上で電話相談に応じてくれている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	家族・入院先の病院相談員と情報交換をまめにしている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	レベル低下の見られる方については定期受診時に、家族の同伴をえて、利用者の状況を共用化し、対応の迅速化を図っている。	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	末期になると本人の希望等も聞けなくなるので、元気なうちから末期のことも話題にしている。症状悪化に伴い、家族・ドクター・スタッフで対応・処置の統一化を図っている。	○ 医師を交えた勉強会を開催し、その人に合ったケアができるようにしていきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	入院退所が現状であり、このケースに遭遇してない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録や、個人情報の管理に十分配慮して保管している。個人情報公開については家族の了解を得ている。お風呂・トイレの利用に関しても個人のプライバシーを守る配慮をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の訴え、希望等がスタッフに伝わるよう話かけをしている。本人の能力に応じたお手伝いを心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った生活リズムで生活できるよう可能な限り合わせている。無理のない・ゆとりのある・納得した日々の生活を支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や・パーマ屋さんについては本人の希望を尊重し、気に入ったお店にでかけている。加齢と共に化粧などはしなくなる傾向あり、外出時は口紅などさしてあげると、女性に戻るひと時もあります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得意分野があり、その人に合った得意分野を活かしてもらおう。献立を利用者と一緒に立て、調理・配善・下善・後片付けなど一人ひとりの得意分野を活かしながら行っている。。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みのおやつや、差し入れの食べ物などを本人希望時は、食事に影響しない程度を配慮しながらお渡ししている。ドクターストップがない限り、常識の範囲で支援している。タバコ・お酒などもたしなむ人がいた。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間はオムツ・リハパンでも、日中は綿パンツで過ごしていただきながら、気持ちのよい排泄ができるよう支援している。一人ひとりをよく観察し、トイレのサインを見逃さないことが大切。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴計画は作成しているが、本人の希望を配慮している。好んで入浴する人はごく一部の人に限られるのが現状。他の人は、本人の納得により入浴している。	○	利用者の希望に沿った時間帯で入浴できるよう工夫していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝は1時間～2時間を目安にし、体調に応じた休養をとるようにしています。夜間の睡眠を基本に考えているが、その人に合った生活パターンで過ごしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人に合った役割分担により、得意分野を生かした作業をすることにより、生きがいある日々を過ごしている。畳の部屋で車座になり、昔のことや、生い立ちを話して、歓談している様子をみかける。スタッフは見守り程度で自主性のまかせている。	○	今後趣味的なことや、昔から馴染んでいたことを楽しんでもらえるよう取り組みたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失・盗難・勘違いなどの不穏騒動をなくすことを目的に、自己管理のできる利用者は除外し、施設管理としている。本人とスタッフで、スーパーやファミリーショップへ出かけ、本人の見立てにより買い物をしている。管理できない人は、お金は買い物のおきだけお渡しして会計し、その後お預かりしています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の希望者により外出し、喫茶店でコーヒーとケーキを楽しんだりしています。医療機関の受診のとき家族同伴で出かけ、お食事会をたのしんだりしている利用者もいます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	施設の希望者により外出し、喫茶店でコーヒーとケーキを楽しんだりしています。時には外食で寿司や麺類を楽しんだり、医療機関の受診のとき家族同伴で出かけ、お食事会をたのしんだりしています。	○	地域に車いす対応可能なお店が少ない。トイレ等も配慮願いたい。身障者が気軽にかけられる施設が増えればもっと家族で出かけた。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、スタッフの見守りで発信自由とし、手紙は家族宛にだしてあります。手紙の出せる人はごく一部です。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問客はいつでも受け入れ、談話は、居室やラウンジを利用しています。できるだけ自分たちの時間が取れるよう・距離を置いて見守りしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会において[身体拘束をなくす工夫]を利用して、可能な限り身体拘束ゼロを目指して取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の強い要望とトラブルを防ぐ為にも居室の施錠は必要であると考えている。自由に出入りできる良さは理解できるが、離園の怖さを考えると玄関に施錠せざるを得ない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在については、スキンシップを取りながら、できるだけ自然な形で確認している。夜間は定期的な巡視のほか、物音が聞こえた場合随時様子を見に行き安全確保に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食の危険性を防ぐ為、石鹸などは手の届かないところへ保管し使用の都度渡して見守りしている。現金を一律保管させていただき、その他のものはその人の状況に応じて対応させていただいています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その人に合った危険防止をスタッフで話し合い、対応を統一化しています。例えば、転倒の危険性のある方には、帽子着用で頭部を保護し、安全確保に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	万一の場合の対応については、勉強会等を通じて周知徹底を図ってます。	○	今以上に医師を交えた勉強会を実施し、急変や事故発生時の対応を学び、万一に備えたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、春・秋に通報・避難訓練・消火訓練を実施し、利用者の非難状況を把握しています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人それぞれ、考えられる事故を想定し、回避する為、家族の方と共に考え、対応してます。転倒防止・異食行為防止・トイレでの控居保持等		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、体調の変化を見逃さない。変化を発見した場合は随時チェックを励行し適切な処置を行っている。健康状況・心身の状況を把握し、ミーティングにて周知し対応の徹底を図る。必要に応じてドクターの指示も仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、各人の処方箋・投薬指示書、その薬の相互作用・副作用等を把握、服薬していただき、状況観察している。投薬変更等あった場合は、人目で分かるようデータ票に記入しスタッフへの周知徹底し、変化があり、早急の対応が必要なときは、drに説明し指示をあおいでます。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動と、食物繊維を多く摂取していただき、水分補給もお願いしている。施設内外での散歩を支援している。排便を促す為、必要な時は冷たい牛乳の摂取をお願いしている。便秘時は水分補給を多めにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	その人に合った口腔ケアを考えて毎食後声かけしている。義歯を外しての口腔ケアができない人には、スタッフが支援している。残菌のない方であろうがいが上手にできない方は、ガーゼで口腔内を拭き取り清潔を保っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の拒否が強い方は、その方の好む飲み物で対応したり、トロミをつけて飲みやすくしたり、工夫している。健康状況により食事量と、水分摂取量を話し合いにより決めている。利用者とドクターも同席して決めることもある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関・受付・調理場・洗面所等にて消毒の徹底を図っている。外出先から入室の時は手洗い、うがいを徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	鮮度の良い食材確保に努力し、生ものにつけは、当日仕入れを基本とし、賞味期限切れの食材があればその場で破棄している。毎夜包丁の熱湯消毒とまな板の殺菌消毒を励行している。食材は市場から直送されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的環境をモットーとしており、施設内外を草花で飾っている。施設・支援センターは、にいつでも見学・相談できるよう回覧板を通じて御案内している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	異食行為の人を考慮しながら、施設内外は季節の花々で飾られ手いる。その季節感は最高だと思います。照明は目に優しい暖色を中心に設置し、トイレは自動点滅式になっています。暖房は床暖房により、ジーンワリ温まります。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋は洗濯物のたたみ場所になっており、作業終了後は車座になり井戸端会議がみられる。ラウンジなどは自由に使用しています。食堂兼ホールは、食事のときは決められた席となりますが、その後は何処へ座っても自由です。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の利用方法に制約は無く、利用者と家族で荷物、箆笥、テレビ等自由に配置し、使いやすいようにそれぞれ工夫しています。花鉢や花瓶を置き、季節の花を楽しんでいる利用者もおります。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室ごとの天窓と、外気側の窓により換気する事ができ、他人様に迷惑を掛けずに換気できます。悪臭も短時間できれいになります。冷気と悪臭が他ホールへ回り込まない利点があります。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の生活に拘束はなく、その人がいきいき生活できることを応援している。廊下、ホール、トイレ等自力歩行ができるよう、手すりを設け、廊下を広くし車いすの人も自力走行を基本とし、体力低下に気をつけてます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	得意分野を生かし、毎日自分の仕事として作業をし、張り切って生活しています。居室には名札を付け、自分の部屋が分かるようにしている。又、トイレの場所も目印をつけることにより、自立できるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	散歩をかねて、スタッフ同伴の道路清掃活動の実施・・・時々地域の方によるお土産(取り立て野菜)もあります。中庭にベンチを配置し、天気の良い日は日光浴ができたり、利用者さん同士で会話を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・機能向上と体力低下の防止のため、リハビリ
- ・利用者が一人ぼっちにならない様、職員と共にやり遂げる楽しさの継続。
- ・その人らしい可能性を生かしながら、毎日をお手伝いしている。
- ・転倒防止のため筋力アップ 散歩の継続